

3. 電子投稿原稿執筆要領 (B-2)

<原稿種別：**研究情報 2** (技術報告・学位論文紹介・解説・講座)>

3. 1 はじめに

本要領は電子投稿を行う**研究情報 (技術報告・学位論文紹介・解説・講座)**の執筆について規定する。

3. 2 **研究情報 2**の原稿の構成

(1) 原稿は投稿規程に定められた下記項目ものが順番に構成される。

[1]原稿表紙 (投稿フォーム)

[2]英文要旨, キーワード

[3]英文要旨の和訳, キーワードの和訳

技術報告, 解説, 講座の[2], [3]は任意とする。

[4]本文

[5]図・表のキャプション (題名) 一覧表

学位論文紹介では, 英文, 和文の両方を作成, 本誌中では図表のキャプションは英和文の二段書きとする。技術報告, 解説, 講座では, 英文要旨を作成した場合は英文, 和文の両方を作成, 作成しない場合には, 和文とする。

[6]図・表 (写真は図に含める)

(2) 研究情報原稿の長さについては下記の通りとする。

原稿の長さは投稿の段階で下記の1)～3)の合計が投稿規程に示す刷り上がりページ数となる。

1) 原稿題名, 著者名, 英文要旨, キーワードで約 0.5 ページを要す。

2) 本文は投稿原稿 (26 字×25 行) 4 枚 (2600 字) で刷り上がり 1 ページとなる。

3) 図・表に関しては高さ 82mm, 幅 82mm の場合に 6 図/ページ, 幅 170mm の場合に 3 図/ページを目安とする。

4) 掲載ページ数は技術報告, 解説及び講座では原則として 6 ページ以内, 学位論文紹介では原則として 4 ページ以内とする。

3. 3 **研究情報 2**の原稿の作成

3. 3. 1 **原稿表紙**

(1) 本会ホームページ「投稿フォーム」の入力内容が表紙となる。

<リンク先> <https://jfs.or.jp/entry-form/>

(2) 必要事項を全て記入すること。記入にあたり以下の点を配慮する。

①和文題名, 英文題名は後述の執筆要領を参照すること。

②原稿区分は該当するものに必ずチェックを入れる。

③講演発表は実績, 予定があれば必ず記入する。

④著者及び勤務先の表記は英文でも記入する。

⑤学位の表記は割愛する。

⑥勤務先の表記は以下のようにする。

大学：機関名・学部名まで (研究所名は表記可) また, 大学院は“大学院工学系研究科”と表記可

企業：会社名・部署名まで (事業所名又は研究所名は表記可)

3. 3. 2 **原稿題名 (和文, 英文)**

(1) 題名は**研究情報内容**がわかるように留意し, 和文題名は**40 字以内で表現**する。

- (2) 英文題名使用時は Study on や原則として冠詞(a 及び the)などは省略する。
- (3) 題名の副題は設けない。
- (4) 題名には商品名を入れない。また、特定の商品名をイメージさせるような紛らわしい表現も避ける。
- (5) 題名は次の表現，もしくはこれに類する表現を避ける。
 ”・・・に関する研究”，”・・・について”，”・・・に関する検討””・・・に関する考察”，
 ”・・・に関する評価”，などは避ける。
- (6) 材質に関する記述は具体的な名称，又は構成元素で表記し，元素記号を用いてもよい。
 - ・”・・・球状黒鉛鑄鉄・・・”，”・・・Al-Si-Mg 系合金・・・” は表記できる。例えば，”Al-Mn 系合金・・・”のように 2 元合金などでこの元素の添加量を変化させているものは「系」を用いた表現が適切である。
 - ・字数制限の範囲内であれば，”Al-7Si-0.5Mg 合金” とより具体的に表記してもよい。この場合の数値は質量百分率を意味する。
 - ・合金組成の長いものは，日本語の表現と比較して，より適正な表現を選択すること。例えば”Zn-4Al-3Cu-0.5Mg 合金・・・” は”金型用亜鉛合金・・・” と表記した方がよい。
 - ・”・・・に及ぼすマグネシウムの影響” が望ましいが，”・・・に及ぼす Mg の影響” も表記できる。
 - ・工業規格で使われる種類の記号（FCD450，AZ91D，A6061 など）は，必ず本文中に具体的な成分や規格の名称を表記する。

3. 3. 3 英文要旨及び英文要旨和訳

- (1) 学位論文紹介の原稿に掲載する**英文要旨**は，研究目的，研究方法，得られた成果を **300 語以内で的確かつ簡潔に記述**する。
- (2) 英文要旨では以下の点に留意する。
 - ・専門用語は正しく表現する。
 - ・英文題目の繰り返し表現はしない。
 - ・結言又は緒言と同じ表現にならない。
- (3) **和文要旨を必ず添付**する。（英文校正時に参考資料として使用する）
- (4) 英文要旨と和訳との時制（現在・過去などの別），表現（能動・受動の別など）を一致させるよう留意する。
- (5) **技術報告，解説，講座は英文要旨を記述することも可能**である。
 その際は上記に従い，作成する。

3. 3. 4 キーワード

<英文要旨を記載する場合>

- (1) 英文要旨の後に **5 個程度の英語のキーワード**を入れ，英文要旨和訳の後に**英語キーワードの和訳リストを作成**する。

キーワードは内容を的確に表す語を選択する。

（補足）

キーワードは，本来は単語の組合せにより表現するものである。すなわち，aluminum alloy であれば，一般的には aluminum と alloy の 2 つを選択する。ただし，例えば cold box のように，cold box となって初めて特有の鑄造用語となるものは 1 つのキーワードとする。

<英文要旨がない場合>

- (1) 本文の前に **5 個程度の和文のキーワード**を入れる。

3. 3. 5 本文

- (1) 原稿は和文とし，縦置き横書きで 26 文字×25 行とし行間を十分に開ける。

※本書式を推奨する理由：査読作業の効率を図るため。

- (2) 原則として本文は、緒言 (はじめに)、実験方法、実験結果、考察、結言 (おわりに)、謝辞、文献の順に記述する。表 1 のような表現を心がける。
執筆にあたり、次の点に留意する。
- ・ 緒言は、研究や開発の背景、関連研究、位置付け、目的を適切に記述している。
 - ・ 数式や記号に誤りはない。
 - ・ 実験結果は図・表として整理されており、本文中で簡明に説明されている。
 - ・ 謝辞及び文献には章番号を付けない。
- (3) 見出し番号は、原則として下記による。
- 大見出し：「1.」, 「2.」, ……
- 中見出し：「1.1」, 「1.2」, ……
- 小見出し：「1.1.1」, 「1.1.2」, ……
- 「(1)」, 「(2)」, ……
- 「(a)」, 「(b)」, ……
- (4) 文章は原則として常用漢字、現代仮名遣いによる口語体を用い、簡潔・的確に記述する。
- ・ 新しい行の初めは 1 字あける。
 - ・ 読点は(,), 句点は(.) を用い、句読点及び括弧は 1 字に数える。
 - ・ 中点は二つのものを並記(溶融・凝固)するときのみ用い、一語のものには用いない。
 (例) シリンダーブロック (×シリンダー・ブロック)
 ロストフォーム(×ロスト・フォーム)
 - ・ 接続詞は原則として仮名書きとする。 (例) かつ、したがって、ただし、また
 ただし、次の三語は原則として漢字を混ぜて書く。 及び、並びに、又は
 - ・ 送り仮名のつけ方は、基本的には常用漢字に従うものとする。
 - ・ 常用漢字表にない漢字は原則として仮名書きとする。
 (例) るつぼ(×罏埵), 漏れ(×洩れ), 等
 ただし、以下の例外を認める。
 (a) 以下の用語は適切に用いられる場合、漢字で表記しても良い。
 銑, 滓, 靱, 脆, 堰, 砥, 濡, 播, 箔
 (b) 以下の熟語は漢字で表記しても良い。
 攪拌, 弛緩, 取鍋(とりべ), 剪断, 防錆, 摺動, 残渣
- (5) 本文中に使用する用語は原則として鑄造用語辞典(日本鑄造工学会編)、JIS 用語集に準拠し、統一する。
- (6) 使用する計量、その他の単位は、JIS Z 8000 に基づき SI 単位を用いる。
- (7) 量記号、単位記号、化学記号及び数値の書き方は、原則として JIS 規程 (JIS Z 8000) に準拠し、統一する。
- ・ 量記号の印字はイタリック体 (斜字) とする。
 - ・ 数式は分母、分子の区別を明らかにする。また文章中に数式を用いる場合、1 式中に斜線 (/) を二つ以上用いない。
 (例) 例えば、 $a/b/c$ は $ab^{-1}c^{-1}$, 又は $a/(b \cdot c)$ とする。
 - ・ 数値は半角ローマン体とする。
- (8) 元素名の表記は、以下に従うものとする。
- ・ 日本語で書かなければならない場合 ——
 (例) (a) 1 元素だけを明示する合金や化合物の一般的呼称
 鉄合金, アルミニウム合金, 酸化物, 水酸化物など (×Fe 合金)

(b) 動作や作用, 状態を表す熟語: 脱炭, 窒素溶解度など

(×脱 C, N₂ 溶解度)

・化学記号で書かなければならない場合 ——

(例) (a) 量的表示を伴う合金: Fe-13%Cr 合金, 又は Fe-13Cr 合金のように記述する. (×鉄-13%クロム合金) なお, 化学成分や濃度を示す%は質量%(mass%)を表し, 「質量」や「mass」を省く.

(b) 4元以上の元素から成る合金: Cu-Sn-Zn-Pb 合金, Fe-C-Si-Mn-Mo 合金など.

(9) 日本語の仮名書きはひらがな, 外来語の仮名書きはカタカナとする.

<日本語の仮名書き事例>

ばらつき (×バラツキ), ねずみ鋳鉄 (×ネズミ鋳鉄)

<日本語の仮名書きに関する留意事項>

次のような語句を用いるときは原則として仮名で書く. (下線部)

(例) 許可しないことがある, 正しいものと認める, 説明するとともに (ただし, "A と B は共に" はよい), 特別な場合を除くほか, 一部の反対のゆえに, 賛成するわけにはいかない, 次のとおりである, 関係者がいる, 利用できる, 増えていく, 上がってくる, 協力をいただく, 問題がある

<外来語の仮名書きに関する留意事項>

・適当な日本語のあるときは日本語にする.

(例) バキューム→真空

・原語(特に英語)の語尾の-er, -or, -ar, -*y にあたるものは, 原則として長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す. ただし, 慣用に応じて「ー」を省くことができる.

(例) クーラー, シリンダー, コンピューター, フィルター, インターフェイス, オーステンパー, ウィスカー 等

キャピティ, ポロシティ, クオリティ, フラクトグラフィ 等

(10) 商品名の記載はやむを得ない場合(唯一無二の装置や特殊な装置など)を除いて避ける.

3. 3. 6 図・表及び図・表キャプション(題名)一覧表(英文, 和文), 縮尺見本

(1) 図・表は1頁に1つ作成し, 図・表のそれぞれに一貫した番号とキャプション(題名)を記入する.

・図書や書籍からの複写図は使用しない.

・図・表中の記号説明は英語表記する. キャプション(題名)は英語と日本語の二段表記とする.

なお, 図のキャプション(題名)は Fig.1, Fig.2 . . .,

表のキャプション(題名)は Table1, Table2 . . .の表記とする.

・キャプションの最後はピリオド(.)で止める. (例: Change of strength with time.)

・図・表中の記号説明及びキャプション(題名)はそれだけで理解できるように書く.

・図・表を転載する場合には, 原著者及び著作権保有者の許可を必ず得る.

<図作成上の注意事項>

・縦軸・横軸を説明する文字, 記号及び単位は横書き, 図からあまり離さないこと.

文字と記号の間は1字あけ, イタリック体の記号を入れる.

記号と単位の間にはコンマを入れて仕切る. (例: Temp. T,K) なお, 記号を省略する場合は文字と単位の間をコンマで仕切り, (Temp., K) のように表記する.

- ・図や写真は編集委員会の決定により無料でカラー掲載する（投稿規程参照）。なお6ページを越える掲載ページ数となる場合は投稿料支払いの対象となるので、ページ数の制限に留意すること。

<表作成上の注意事項>

- ・表中の単位は括弧()に入れる。（例：Temp. (K)）
- ・慣用的に用いられており、意味を取り間違える恐れのない単語は省略語を用いる。（例：Temperature→Temp.）

(2) 本文原稿の初出の図表番号（Fig.1, Table1 など）は太字にする

(3) **英文要旨を記載する原稿は、図・表のキャプション（題名）一覧表（英文と和文）を作成、図・表の前に添付**する。

3. 3. 7 文献

(1) 文献は、本文の最後に一括して、和文誌からの引用は和文で、英文誌からの引用は英文英語表記で記載する。

(2) 関連する文献は抜けなく記載する。

(3) 文献は、一般に入手可能な文書のみを引用することとし、一般に入手困難な文書、例えば私的な会議録や私信などは引用しない。

(4) 文献の記述は以下に従うものとする。

(a) 論文

全著者名：雑誌名称巻(発行年)通巻ページ

- 1) 「鋳物」の場合 塩田俊雄，小松真一郎：鋳物 **54** (1982) 434
- 2) 「鋳造工学」の場合 柴田良一，金内良夫：鋳造工学 **68** (1996) 32
- 3) H. F. Fishmeister, R. Riedl and S. Karagöz: Metall Trans., **20A** (1989) 133

(b) 通巻ページのないもの

全著者名：雑誌名称 巻(発行年)号，ページ

- 4) T. Bex: Modern Casting **81** (1991) 9, 29

(c) 国際会議録(Proceedings)

全著者名：会議録名称，会議の場所（発行所）(発行年) ページ

- 5) B. Liu, J. Guo and C. Zhou: Proc. Phys. Metall. Cast Iron IV, Tokyo (JFS) (1989) 577

(d) 国内講演会における講演論文集，講演概要集

全著者名：雑誌名称開催回数(又は巻)(発行年)ページ

- 6) 鈴木基夫，田宮正治：鋳造工学講演概要集 129 (1996) 41

(e) 書籍

全著者名：書籍名称(発行所)(発行年)ページ

- 7) 中村次郎，山田泰三：鋳造学(日本出版)(1987)64
- 8) H. A. Schwartz and A. M. Bodart: Foundry Science(Pittman Publishing Co.) (1950) 50

(f) 文献の末尾にDOIを記載してもよい。

- 9) 中江秀雄，五十嵐芳夫：鋳造工学 **91** (2019)190 DOI:10.11279/jfes.91.190

(g) その他上記(a)～(e)に準じて記述する。

3. 3. 8 著者チェックリスト

(1) 著者チェックリストは本会ホームページ投稿フォームからダウンロードして作成，投稿フォームにアップロードする。

<リンク先> <https://jfs.or.jp/entry-form/>

(2) チェックリストに記載されている項目全てに対して，不備（漏れ）のないことを確認する。

3. 4 投稿方法

- (1) 電子投稿論文原稿の投稿者は、投稿フォームから原稿を投稿する (<https://jfs.or.jp/>)。
 - ・原稿は、題目（和文・英文）・著者名・英文要旨とキーワード・英文要旨の和訳・本文・図、表のキャプション（題名）一覧表・図表をすべて1つのファイルにまとめる
 - ・図は、査読用に解像度を落として、PDF ファイルの容量は 5MB 以内とする。

3. 5 載決定後の電子媒体原稿等の作成、提出

- (1) 編集委員会事務局から掲載決定の通知及び電子原稿提出依頼が届いたら速やかに電子媒体原稿を作成する。最終原稿は、原則として下記の形式に沿って準備する。
 - ・本文・・・・・・・・・・MS word ファイル
 - ・図表・・・・作成した形式のファイル（JPEG, PDF, PNG, PPT, EXCEL 等）
- (2) 電子媒体原稿提出時点での原稿修正や追加は認められない。
- (3) 作成した電子媒体原稿は速やかに最終原稿送信フォームより編集委員会事務局に提出する。ファイルサイズが WEB 送信の制限を超える場合は事務局に連絡する。